

2019年 第2回運営推進会議

2019年7月10日(水)
地域密着型介護老人福祉施設
越谷なごみの郷

運営推進会議の趣旨

I. 運営推進会議の目的

1. 事業所運営の透明性の確保
2. サービスの質の確保
3. 事業所による「囲い込み」の防止
4. 地域との連携の確保

II. 地域密着型サービスの役割

- ① 本人本位の支援
- ② 継続的な支援
- ③ 地域で暮らし続けることの支援
- ④ 地域との支えあい等を理念とする地域密着型サービスは、入居者・利用者のより良い暮らしを着眼点に本人と地域との関係を断ち切らない支援

上記の役割を担うため、事業所と地域との良好な関係を築き、事業所が提供するサービスが、住民ニーズに即した価値のある地域資源として機能していく必要がある。利用者がどのような暮らしを望み、これからサービスを利用するかもしれない住民が何を期待しているのかを知らなければならぬ。

運営推進会議は、事業所と地域との関係をつなぐ一つの手段であり、地域密着型サービスを「事業所と地域住民とが一緒に育てていく」ことを目的に行っていく。

1. 介護老人福祉施設

【運営状況報告】

● 介護老人福祉施設 5月9日～7月8日までの入居・退居状況

入居者	退居者	在籍者
1名	1名	29名

● 平均年齢と平均介護度

平均年齢	平均介護度
83.9歳	3.73

●人員体制 人員配置基準(2.5 : 1)

入職者・異動職員	退職者・異動職員	地域密着型施設の職員数
入職者=3名(派遣社員)	退職・異動者=2名 (5/9に1名 5/20に1名)	24名 (2.75 : 1) (育休者1名、療養者1名)

● 事故・苦情の発生状況

種別	件数	事象	内容
事故	5月5件	① 入居 配薬忘れ ② 入居 左手甲骨折 ③ SS転倒 ④ 入居紛失 ⑤ SS忘れ物	① 5/4 昼食前の薬の配薬忘れあり。職員間の引き継ぎ、確認のミスが原因であった。入居者に異変などなし。 ② 5/4 左手の甲にアザを発見。受診後、骨折が判明。入居者の利き手は左手で、入浴時・排泄介助時・移乗介助時など左手が巻き込まれたり、ぶつかったりする等の可能性がある為、支援方法および介助方法の変更を図る事とした。 ③ 日勤者が他者を介助中に主が一人で立たれ歩きだし、転倒する。リスク抽出が足りず、対応策が曖昧だった。 ④ 5/27 口腔ケア時、部分入れ歯の小さい方が無いことに気づく。食後入れ歯を外す行為が、見られていたにもかかわらず何の対策も立てず、そのままにしていた。 ⑤ 5/27 日中にすでに退所されたにもかかわらず、冷蔵庫の中に目薬が残っていたのを夜勤が発見する。持参薬チェック表で持参時と退所時にチェックすることになっていたが、行なっていなかった。
事故	6月6件	①入居痣発見 ②入居転倒 ③入居転落 ④SS転倒	①6/3 入浴のため、着脱介助している時に、左ひじ内側が赤くただれているのを発見する ②6/10 トイレでお尻を付いた状態で座り込んでいるのを確認した。便器から車イスに移ろうとしてずり落ちたとの事→検証の結果、中腰での立位保持は不可能であり、パットも替えられず、リハビリパンツもズボンも上げる事ができないため、介助が必要であるが call をおしてくれない。 ③6/24 居室からリビングに誘導し、窓側に車イスを向け待機して頂いたが、前傾姿勢で横に倒れ込む形で車イスより転落したと思われる→派遣職員にが個の情報収集をする上で、24hシートしか無い中で、リスクを記入していなかったことで、対応できなかった。 ④夕食後、食べたばかりで休んでもらい、他者の就寝介助をしてリビングに戻ると主が右側臥位で床に寝ているところを発見する。優先順位を間違えた

		<p>⑤入居落葉</p> <p>⑥忘れ物</p>	<p>転倒することが予測されたが、食べて直ぐに動くとは予測できなかった。</p> <p>⑤Bユニットのリビングのテーブルわきに白い粒の薬が落ちているのを発見する。</p> <p>調べると田中知恵子氏の夕食後の薬と同じ番号 TC11 と判明。二重に飲むリスクを考慮し、そのままにするよう NS から指示をもらう。派遣山本が夕食時に B ユニット対応担当であり、与薬ルールを遵守していなかった可能性あり。</p> <p>⑥6/16～6/28 利用 退所後ご家族から連絡でインシュリンセットを忘れ帰っていることが判明。家族が取りに来られる。</p>
--	--	--------------------------	---

● 教育・研修等

災害時訓練前研修 (5/23・5/29)	6月に予定している災害訓練を効果的な物にするため、消防署員を講師に招き、基礎知識や避難方法について学んだ。
防災訓練(6/13)	地域密着型 通所介護のベッド脇のコンセントから出火想定で実施館内放送が全体に届かなかったことや防火扉が閉まらない、ロックも解除にならない等の今までに経験した事がない事象が発生した。

※ その他、今年度も法令に沿った研修を実施予定

【活動状況・予定】

活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる「お習字」を今月も行っている。各ユニットから希望する方が D ユニットに集まり、「令和」を半紙に書いていましたが、お見事です。「条福を書いた時代もあったのよ」と自慢するだけありました。 ・7月19日流しソーメン実施予定。
ユニット会議とリーダー会議	<ul style="list-style-type: none"> ・職員不足によるユニット会議が昨年からは開催できていない事で共通課題を共有できないことが重点課題でもあり、とりわけ、ユニットリーダー会議は、辛うじて夜の8時から開催できました。派遣職員が増えた事での課題や外国人職員採用による課題など話し合わなければならないことが山積みである。

3. 認知症対応型デイサービス

● 5月1日～7月8日 までの状況

新規利用者	契約終了者	在籍者
0名	1名	20名（男性1名・女性19名）

●平均年齢と平均介護度

平均年齢	平均介護度
80.0歳	3.5

●認知症高齢者日常生活自立度

自立度	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
人数	3	3	3	3	1	3	4

I	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」 基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです。
II a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態」
II b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」
III a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態」
III b	判断基準「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態」
IV	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態」
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態」

●職員体制

入職者・異動職員	退職者・異動職員	職員数
入職者＝0名 異動者＝0名	なし	6名 (管理者、兼務職員、運転職員含む)

●事故・苦情の発生状況

種別	件数	事象	内容
事故	1件	転倒	・ユニット3Fで開催された演奏ボランティア後に、ユニット職員が誘導をする事にはなっていたが、早く居室に戻りたいと話があり、ショートステイの利用者、1Fの入居者の方を認知症対応型の職員が誘導した。 入居者、利用者合わせて4名の方を1名の職員がエレベーターで誘導し1F到着後2名の方を先に居室へ誘導するため2名の方にエレベーター内に待機して頂いていた。

		<p>職員がエレベーターへ戻ると1名の方が床に座り込んでいた。</p> <p>(原因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当部署以外の職員が誘導を行う場合は、利用者・入居者の状況を確認し対応する ・ユニットで開催されるボランティアの対応について手順書をユニットの職員と作成し誰がどのように担当するかなどを明確にした。
--	--	--

●教育・研修 予定

中途採用者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・中途採用の職員に向けた研修 <p>社会福法人の役割、関係法令について、認知症についてなどの内容</p>
災害訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット3Fから出火したと仮定し訓練を実施 <p>避難経路からの避難誘導 水消火器を使用した消火訓練</p>

【活動状況・予定】

生活動作機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人が役割を持てるように活動内容の提供を行う (買い物、調理活動(食事の準備、片づけ等)、その他家事活動) ・洗濯物(タオル等)を干す事等行っている ・字を書く事ができる方は、書き続けられるように当日の献立を書く機会をつくっている
身体機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の身体機能に合わせた機能訓練の実施している ・館内散歩や買い物活動への参加により歩行する機会を増やす事を実施している ・天候のよい日には、歩いて外を散歩する機会を増やしている ・年始は、歩ける方は職員と歩いて近所の神社に行った